

# 悪性中皮腫で治験



公文裕巳氏

た。同大の特許技術を活用した治験は初めて。

岡山大、桃太郎源は、同社とライセンス契約を結んだ製薬大手の杏林製薬（東京）と

共同で悪性中皮腫に対する遺

伝子治療薬の開発プロジェクト

に取り組んでいる。プロジ

ェクトは昨年6月、科学技術

振興機構（JST）の産学共

同実用化開発事業に採択され

ている。

## 新薬開発へ

開始 月内

日本医薬情報センター（JAPIC）などによると、治験は杏林製薬が岡山大病院（岡山市）など国内3施設で行う。18症例でREICの安全性や有効性を検討する。具体的開始日や期間は明らかにしていない。

改良を加えた第2世代の薬剤が完成し、既に米国で前立腺がんを対象にした臨床試験が実施されているが、国内で患者に投与されるのは今回が初めて。

REICは2000年に岡山大が発見。患部への運び役となるアデノウイルスを組み合わせた薬剤で、がん細胞のみを自滅させ、がんに対する患者自身の免疫を活性化させることが、前立腺がんに関する臨床研究などで分かっている。

桃太郎源取締役の公文裕巳・新見公立大副学長（岡山大名誉教授）は「治験は実用化に向けた最終ステップ。今後、肝臓がんなど対象を拡大して遺伝子治療薬の開発を進め、新しいがん治療法を確立したい」と話している。

（伊丹友香）

## 岡山大 がん治療遺伝子

岡山大発創薬ベンチャー「桃太郎源」（岡山市）は25日、同大が発見したがん治療遺伝子「REIC（レイク）」を使った悪性中皮腫に対する臨床試験（治験）が今月から始まると発表し